# 株式会社ヒラノテクシード(奈良県)

~ 慎重かつ大胆な「守りの特許戦略」 ~

### 1. 塗工・化工機械の国内トップメーカー

同社は、昭和10年、熱交換器(ヒーター)と送排風機(ファン)の専門メーカーとして、大阪市平野区で創業した。戦後は、繊維機械(染色仕上げの乾燥機)を中心に事業展開し、日本の繊維産業の発展に貢献していた。その後、昭和48年のオイルショックを機に、ドイツ企業からコーティング技術を導入。当初は粘着テープや絆創膏関係の製造機械からスタートしたが、成長が見込まれる電気・電子分野への方針転換を行った。

コーティング技術に関しては、導入技術を大幅に改良発展させ同社独自の技術を確立するとともに、「塗る」、「乾燥・熱処理」、「フィルム走行制御」に関する技術をコア技術として、「人と技術と未来を作る」をトータルコンセプトに掲げ事業展開を行っている。現在では、液晶フィルム関係、各種電気・電子部品のほとんどに同社の関連技術が利用されている。

## 2. 技術交流の場「テクニカム」

同社では完全な受注生産体制を構築しており、「テクニカム」という施設で実際に生産機レベルでの試作を行えるようにしている。「テクニカム」とは、基礎技術の確立、テスト設備による実験・検証、新商品の開発を目的とした、お客様との技術交流の場である。当該施設は、世界でも類を見ない最大規模のテスト設備を備えており、ユーザー毎のニーズに合わせた機械仕様の決定に貢献している。

#### 3. 慎重かつ大胆な「守りの特許戦略」

ニーズに合わせた研究開発を中心として、守りの特許戦略を展開している。出願に関しては、研究・技術・設計部門からの提案があった後、担当者がIPDL(特許電子図書館)を活用して先行技術調査を行い、知財担当者と弁理士を加えて出願の打合せを行う。重要な案件に関しては、古くから付き合いのある特許事務所に出願を委託している。外国出願も行っており、特に、韓国・中国などへの出願が多い。また、テクニカム等で得た技術を特許によって保護しているのに加え、熟練技術についてはノウハウとしてブラックボックス化し、業界での優位性を確保している。ラボノートの作成・管理の徹底、さらに、基本的にライセンスアウトは行なわずに、先使用権の確保、技術の漏洩を回避している。

他社からの特許侵害に関しては、過去に無効審判・審決取消訴訟を経る中で明細書の補正の可否を巡り、最高裁で争ったこともある。また、最近では、自社の製品をユーザーに販売した後、同社の発明をベースにした利用発明を巡るユーザー同士の係争に巻き込まれる場合もある。そうした状況を回避するために、テクニカムを使用する

ユーザーに対する秘密保持契約、利用発明が生じた場合の報告等に関する覚書などを 徹底している。海外での模倣品に関しては、かつては中国等で模倣があったが、最近 では、技術レベルの差異により、少なくなってきている。

## 4. 「発明考案審査委員会」と社内インセンティブの向上

昭和42年より「発明考案促進審査委員会」(技術関係の部課長約10名で構成。委員長は研究開発担当常務。)を社内に設置しており、出願の要否決定を行っている。2ヶ月に1回程度、会合を開催し、社員から提出された発明案件について、事務局が他社の技術等を調査し、ある程度の判断も付した上で審議している。技術者に対しては、社員研修において特許の重要性・発明規定・特許報償に関する内容を中心に教育を行っている。さらに、外部から弁理士を招いての勉強会も定期的に開催している。報償制度に関しては、出願・登録・実績の三段階において報奨金を交付している。

## 【保有権利に基づく製品例】



酸化チタンコーティングテスト装置



**CAPコータ** 



極薄膜形成機



有機EL製膜プロセス機器

#### <会社概要>

名称及び代表者名	株式会社ヒラノテクシード 取締役社長 三浦 日出男
本社所在地	奈良県北葛城郡河合町川合101-1
創業	1935 (昭和10) 年
資本金	18億4,700万円
従業員数	250名
主要製品	<b>塗工機械、化工機械</b>
電話	0745-57-0681
URL	http://www.hirano-tec.co.jp/

148